

## ブルキナファソ国ゴマ生産支援プロジェクト



案件名：ブルキナファソ国ゴマ生産支援プロジェクト

契約期間：2014年10月－2016年10月

近年、ブルキナファソではゴマの栽培が活発に行われており、ゴマは綿花に続く第2の輸出農産品として農家生計を支える重要な作物となっています。ブルキナファソで作られたゴマは、遠く離れた日本にも輸出されており、ブルキナファソは日本にとって搾油用ゴマ輸入先国第3位の国となっています。

高まるゴマの需要のなか、「ゴマ生産支援プロジェクト」は、ブルキナファソの生産者の所得向上とゴマ生産性改善を目的に、2013年、ブルキナファソ・日本両国間で協力実施の調印がされました。

期待され動き出したプロジェクトではありますが、これまで多くの社会情勢不安に巻き込まれてきました。まずは、2014年10月に起きた国民騒動。27年におよび独裁政権を布いていた大統領を、国民が一致団結し国外に追放したのです。連日デモが繰り広げられ、多くの死者を出しましたが、国民の意思が国政を正す歴史的出来事となりました。しかしながら、この社会混乱により、業務が再開出来たのは騒動の約1か月後でした。次に2015年9月のクーデター未遂。一部のエリート軍人が「今がチャンス！」と暫定政権の大統領と首相を拘束し、クーデターを計りました。こちらも国軍と国民が立ち上がり未遂に終わりましたが、プロジェクト事務所近くで国軍とクーデター側の銃撃戦が繰り広げられるなど、日本人関係者にとっては国外退去寸前の出来事となりました。そして2015年末、幾度の困難を乗り越え新大統領が選出され、新しい時代の幕開けも束の間、2016年1月15日にテロリストにより首都中心街のホテルとレストランが襲撃され、多くの犠牲者を出す傷ましい事件が起きてしまいます。

ブルキナファソの様な発展途上国は、経済基盤の脆弱性や社会状況の不安定さなど多く

の課題を抱えております。とくに社会状況の悪化は国の発展に直接影響してまいります。

2016年3月現在、ブルキナファソではテロ以前の落ち着きを取り戻しています。このままこの平穏が続くことを願いつつ、本プロジェクトが少しでもこの国の未来に貢献できるよう、身を引き締めて取り組んでいきたいと思っております。

(文責：自然環境部 菊田)

JICA ゴマ生産支援プロジェクト紹介ページ：

<http://www.jica.go.jp/project/burkinafaso/005/outline/index.html>



ゴマ収穫後処理風景



生産者による育成観察



プロジェクト圃場視察



種子生産研修



テロ襲撃ホテル (2016年1月)



テロ襲撃レストラン (2016年1月)